曙光（しょこう）	吹田東高校　50 期生　進路だより　vol.8 2024.2.9

Ⅰ．１年生最後の『学年末考査』

2/16(金)から学年末考査が始まります．勉強は順調に進んでいるでしょうか？
１・２学期と違い，学年末の考査は１度きりですので，「**中間でだめだったから期末で取り返す**」といったことができません．なのでしっかり勉強した上で，後で後悔しないように考査に臨みましょう．

１度しか考査がない，というのは「**ヤバい科目」がある人にとってはある意味でチャンス**かもしれません．なぜなら今回の考査が今までの２回分の価値をもつからです(中間・期末を実施している科目の場合)．ここでよい点を取るということは中間・期末連続でよい点をとったことになると考えれば，今まで成績が振るわなかった科目でも**十分挽回のチャンス**があります．高い評定を狙っている人にも同じことが言えます．とにかく伝えたいことは「**学年末考査は最後のチャンス！**」ということです．

Ⅱ．評定平均とは

評定平均とは文字通り評定の平均を取ったものですが，この数値は皆さんの進路にどう影響するのでしょう?評定平均は学校推薦型選抜(指定校推薦や公募推薦)の受験時や総合型選抜(AO 入試)，就職時に必要になります．指定校推薦を例にすると，「〇〇大学　△△学科　の受験資格は評定平均 4.0 以上」といった条件があることが多いです．また，公募推薦では評定平均を何倍かして点数化する大学もあります．このように評定平均はみなさんの**次の進路に進むために重要な数値**であるといえます．

ちなみに，この評定平均の算出の仕方は覚えているでしょうか？いろいろなところで言われていると思いますが，ここでもう一度確認しておきます．

$$\text{評定平均} = \frac{\left(\text{１年の評定合計}\right) + \left(\text{２年の評定合計}\right) + \left(\text{３年の評定合計}\right)}{\text{１～３年の総科目数}}$$

式から分かる通り，１・２年次と３年次の成績の大切さは同じです．ここで最後頑張って評定２の科目を３に，３の科目を４に……とできれば，３年次の入試や就職のときに有利に働きます．そういう意味では**入試はもうすでに始まっている**といえるでしょう．**あと一週間，頑張ってみませんか？**

評定	100 点法
5	80～100
4	65～79
3	45～64
2	40～44
1	～39

今年度の進路だよりはこれが最終号です．そこで私(大平)が思っていることを３つ書いておきます．

・「大人になる」とは

無事みなさんが進級できたとすると(心からそう願っています)みなさんは晴れて 2 年生となりますが，これを自動的なプロセスと考えずに，自覚的に「2 年生になるんだ」と思ってほしいのです．４月には新入生が入学し，後輩ができます．みなさんは 51 期生よりたまたま１年早く生まれただけの先輩になるのではなく，しっかりと知識や経験，責任をもった自覚ある先輩とならねばなりません．

大人になることと，歳を取るということは違います．大人になるということは知識や経験，技術などを学び，習得しそれを次に伝える(責任ある)立場になっていくということです．みなさんはそういう意味でこの 1 年でどれぐらい，どのような点で大人になったでしょうか？この１年を振り返って少し考えてみてください．

・「可能性」は幻

私が子どもの頃は学校や周りの大人から，「子どもには無限の可能性がある」というようなことをよく聞きました．私自身は冷めた目で「ふ～ん」と聞き流していたタイプの人間でしたが，この立場(教員)になってみると，みなさんには本当にいろいろな可能性があるのだと日々実感します．学力や体力，人間としての魅力がもっともっと成長していくな，と感じるのです．

しかし一方で「**可能性」それ自身は実態のある「モノ」ではありません**．それはある種の「予感」であり，そのままでは幻なのです．可能性があっても，それを実現しようとしなければないのと同じです．学力が伸びる可能性があっても実際に勉強をしなければ学力は伸びませんよね．可能性とはそれを実現しようとする**行動が伴ってこそ初めて意味がある**ものなのです．みなさんのもつ可能性を幻のままにせず，行動を起こすことで現実にしていってください．

・勉強は最強の保険

みなさんは今，様々な「可能性」をもちながら，「大人になって」いかなければいけません．しかしながら，具体的にどの可能性に対してどう行動していいのかわからない人がほとんどだと思います．そこで最後にそういう人へアドバイスをしておきます．それは「**１でも偏差値が高い大学に行くために日々勉強する」**です．まず言っておきたいのは私は大学に行くことがよいとも，偏差値が高い大学がよいとも思っていません．あなたの興味や目的に合致する進路が当然一番よいものです．でもそれが今わからないのであれば，できるだけ偏差値の高い大学に受かるために勉強しておけば，どこかのタイミングで本当に進みたい進路が見つかったときに，その多くに対応できます．

可能性を現実にしておいて，後でどれでも選べる状況をつくって置きましょう．そしてその努力の過程(進路が決まっている人はそこに向かっていく過程)の中でみなさんがすこしずつ大人になっていくことを願っています．

説教臭い文章になってしまいましたが，これを読んだ人が１人でも何かを感じ，行動しようと思ってくれたら幸いです．それでは来年度またお会いしましょう．